

事業活動における環境負荷を低減するため、省エネルギーや資源の循環、環境負荷物質の適正管理など、さまざまな取り組みを行っています。

省エネルギー、CO₂排出量の削減

生産活動においては、さまざまなエネルギーの利用や産業廃棄物などの環境負荷が生じます。私たちは一つひとつの問題に対して、環境への配慮に基づいた活動を行っています。

省エネルギー

当社は、地球環境問題が表面化する以前から省エネルギー活動に取り組んでいます。また、1993年には省エネルギー分科会（現省エネルギーワーキンググループ）を設置しました。

横浜事業所（本社、ばね横浜工場、シート横浜工場）は1991年に首都高速道路建設事業に伴い日本社および横浜工場の全面移転を行いました。この移転を契機に、現所在地における施設および設備で省エネルギー対策を強化し実施しています。

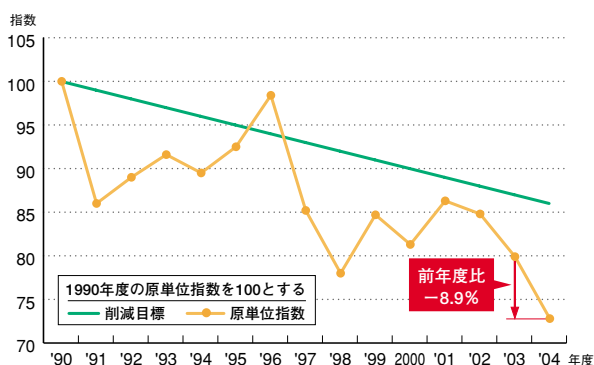
● 省エネルギー活動の目標と実績

1990年度を基準に、売上高エネルギー原単位、年率1%削減を目標としています。

2004年度の実績としては、原単位目標値*86.0に対して、原単位指数72.8と目標値をクリアしています。

*原単位目標値：1990年度の原単位指数を100とした場合の削減目標値

■ 売上高エネルギー原単位の目標値と実績推移



CO₂排出量の削減

当社は、国内関連会社と連携して活動目標をかかげ、CO₂排出量削減などの地球温暖化防止に取り組んでいます。

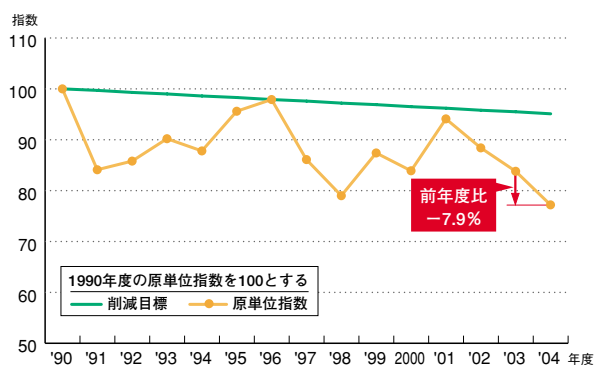
● CO₂排出量削減活動の目標と実績

1990年度を基準に、売上高CO₂排出量原単位を、2010年度までに7%削減することを目標としています。

2004年度の活動実績としては、原単位目標値*95.1に対して、原単位指数77.2と目標値をクリアしています。

*原単位目標値：1990年度の原単位指数を100とした場合の削減目標値

■ CO₂排出量原単位指数の目標値と実績推移



循環型社会への取り組み

循環型社会への取り組みのために、廃棄物分科会（現廃棄物ワーキンググループ）および530（ごみゼロ）プロジェクトを設置し、廃棄物の削減、再使用、再資源化に取り組んでいます。

循環型社会への取り組み

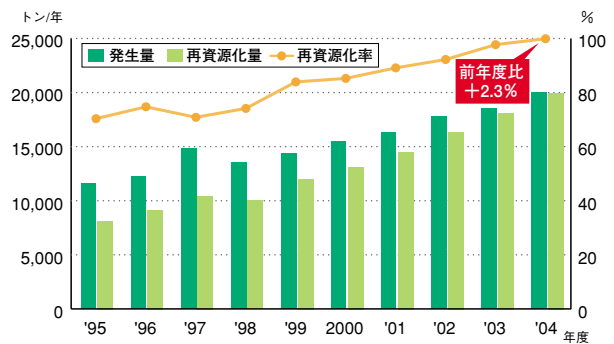
当社は、循環型社会への取り組みとして、ゼロエミッション達成*を目標に、廃棄物の埋立処分量削減を行っています。2002年度末には、これを横浜事業所で達成し、2003年度からは全社的な取り組みを進めています。

● 循環型社会への取り組み目標と実績

2005年度までの全社ゼロエミッション達成を目標としていますが、2004年度末で全社再資源化率は99.8%となり、目標を一年前倒しで達成しました。

*当社はゼロエミッションの定義を「再資源化率99%以上」としています。

■ 廃棄物再資源化率の実績推移



530プロジェクトの活動事例

● リサイクルセンター

伊勢原工場では、分別保管マップを作成して分別の徹底を行い、リサイクルセンターを整備して再資源化率の向上をめざします。



伊勢原工場のリサイクルセンター

● 計量管理システム

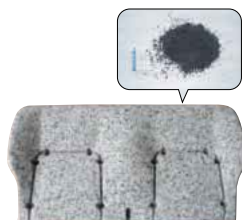
廃棄物に貼付されたバーコードを読み込み、種類と量を排出部署ごとに自動的に集計します。データは各部署の排出量の管理と減量化、そしてコスト意識の向上に役立っています。



バーコード読み込みによる集計

● チップウレタンのリサイクル

工場の生産過程で排出されるウレタン端材を、粉碎チップに加工します。このチップウレタンは、家具、寝具、カーペットなどのクッション材や緩衝材などに再生されています。



粉碎チップと再生クッション材

● エコシュレッダー

研究開発など機密の保持を必要とする書類は、出張シュレッダー業者と契約し、排出者立ち会いのもと断裁し、製紙業者へ送ります。



シュレッダー業者による断裁作業

VOICE ●●● 担当者の声 ●●● 全社ゼロエミッション達成後も活動の維持・継続を図っています



株式会社ニッパツアムニティ*
ゼロエミ推進チーム
武村 憲二さん

ニッパツは2000年に、「530（ごみゼロ）プロジェクト」を発足させ、横浜事業所でスタートしました。各職場で個人用のごみ箱を撤廃し、分別ステーションを設けて分別収集の指導を行うとともに、さまざまな啓発活動を通じて徹底を図りました。その後、再資源化率99%以上のゼロエミッションを目標として全社に展開してきました。全社で目標達成した現在も、定期的に分別パトロールを行うなど、循環型社会に向けた活動の維持・継続を図っています。

*ニッパツアムニティは、ニッパツの各事業所内の施設管理、緑化事業などを手がける子会社

環境負荷物質の管理と削減

関係法令や当社が加盟する組織の規程、自社基準等に従い、環境負荷物質を正しく管理するとともに、その削減に努めています。

PRTRの調査

当社は、1997年度から経済団体連合会のPRTR自主調査の取り組みに参加し、環境負荷物質の排出量、移動量の把握に努めています。

2001年6月からはPRTR法によるデータ報告を各事業所ごとに実施しています。さらに、当社は独自のPRTR調査の方法を取り入れ、全部門で使用されている

化学物質の年間取扱量を把握しています。これらの取り組みにより、2005年1月に「第1回PRTR大賞」奨励賞を受賞しました(▶P4)。

物質ごとの総量で年間取扱量1トン以上のものは下表の通りです。

2004年度環境負荷物質の排出量・移動量の調査結果

| PRTR法 政令No. | 物質名 | 指定化学物質 の種類 | 取扱量 | 排出量 | | | | | | 移動量 | |
|----------------|-----------------------------|---------------|---------|------|-----|----|----------|-----|-----|-----|------------|
| | | | | 大気 | 水質 | 土壌 | 自工場で埋め立て | | | 下水道 | 産廃 (委託) |
| | | | | | | | 安定型 | 管理型 | 遮断型 | | |
| 1 | 亜鉛の水溶性化合物 | 第一種 | 9.9 | — | 0.0 | — | — | — | — | — | 3.7 |
| 40 | エチルベンゼン | 第一種 | 15.4 | 7.0 | — | — | — | — | — | — | 0.0 |
| 61 | ε-カプロラクタム | 第一種 | 2.3 | 0.2 | — | — | — | — | — | — | — |
| 63 | キシレン | 第一種 | 48.1 | 27.5 | — | — | — | — | — | — | 0.6 |
| 144 | ジクロロベンタフルオロプロパン(HCFC225) | 第一種 | 3.2 | 3.1 | — | — | — | — | — | — | 0.1 |
| 145 | ジクロロメタン | 第一種 | 12.8 | 12.8 | — | — | — | — | — | — | 0.0 |
| 207 | 銅水溶性塩 | 第一種 | 27.2 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 227 | トルエン | 第一種 | 63.3 | 39.9 | — | — | — | — | — | — | 4.9 |
| 232 | ニッケル化合物 | 特定第一種 | 3.5 | — | 0.0 | — | — | — | — | — | 1.0 |
| 272 | フタル酸ビス(2-エチルヘキシル) | 第一種 | 1.2 | — | — | — | — | — | — | — | 0.3 |
| 311 | マンガン及びその化合物 | 第一種 | 1.0 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 338 | メチル-1,3-フェニレン=ジイソシアネート(TDI) | 第一種 | 1,469.7 | 0.1 | — | — | — | — | — | — | 5.1 |
| 合計 | | | 1,657.6 | 90.6 | 0.0 | — | — | — | — | — | 15.7 |

●集計方法はPRTR法による(年間取扱量が全社合計で1トン以上のものを記載)
●"—"はゼロ

単位:トン/年

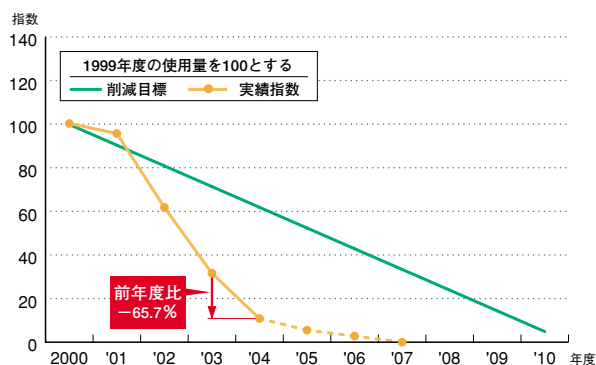
ジクロロメタンの削減

当社の加盟する業界団体である(社)日本自動車部品工業会の「環境自主行動計画」に従い、ジクロロメタンの使用量削減に取り組んでいます。2005年4月改訂の「第3次環境自主行動計画」では、ジクロロメタンの2000年度排出量の95%削減を2010年度までに達成することを目標としています。

●ジクロロメタン使用量削減の目標と実績

当社の使用量は2000年度に最大となりましたが、その後全社をあげて削減活動に取り組み、洗浄剤および接着剤の代替品への転換に成功して、2004年度までに大幅な削減を達成しました。さらに今後は業界の目標を前倒しし、2006年度末までに全廃することを目標に削減活動を進めていきます。

■ジクロロメタン削減の目標値と実績推移



国内関連会社の取り組み

当社はグループをあげて環境保全活動を進めています。国内関連会社24社は、それぞれ環境負荷低減などの活動を行っています。

省エネルギー、再資源化活動事例

- 適正なエアコン温度設定の徹底などによる消費電力の削減、再生紙利用など紙資源の有効活用、ごみの分別、グリーン購入など、環境保全に向けたさまざまな取り組みを行っています。[ニッパン]
- 2004年度から、ゼロエミッション活動を積極的に展開し、年度末までに再資源化率100%を達成しました。[日本シャフト]
- これまでの活動に加え、新たに廃プラスチック、プラスチックと金属との混合物などのリサイクルを開始しています。[ユニフレックス]
- 受入部品の袋を再使用し、ごみ袋の購入を止めました。また近隣企業と協力し、工場前の公道の美化活動を行っています。[フォルシア・ニッパツ九州=FNQ]
- ゼロエミッション活動を積極的に推進し、2005年度は、廃棄物の非資源化量を前年度比で半減することをめざしています。[スミハツ]



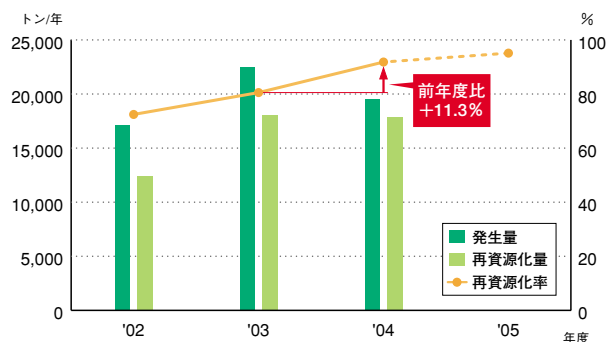
排水の処理の方法を従業員全員で学ぶ(FNQ)

循環型社会への取り組み

2004年度の国内関連会社の廃棄物発生量は年間19,512トンでした。その再資源化量は17,886トンで、91.7%の再資源化率となり、2003年度から11.3%向上しています。

国内関連会社では2005年度末までに再資源化率95%以上をめざし、ゼロエミッション活動を進めています。

国内関連会社の廃棄物の発生量と再資源化量推移



VOICE ●●●担当者の声●●● ニッパツグループ内の情報交換や好事例の横展開を図ります



横浜機工株式会社
環境対策推進室長
藤井 義郎さん

ニッパツグループ各社では、品質・安全・社会貢献・危機管理など取り組むべき課題が増大しています。限られた経営資源の中で、各社独自の、そして特徴ある目標設定が重要ではないかと感じています。その一方で、たとえば環境保全では、ニッパツの活動に準じ、ISO14001の認証取得や「ニッパツグループ環境フォーラム」などへの参加を積極的に推進しています。今後もグループ内の情報交換や好事例の横展開を図り、各社の状況に応じた活動を展開していきます。